

大学教育の在り方などについて意見が交わされた合同フォーラム＝金沢市広坂で



北陸3県の大学
合同フォーラム
しいのき迎賓館

大学教育を充実させるため二年前から進められてきた「戦略的大学連携支援事業」（戦略GP）を振り返る北陸三県合同フォーラムが十八日、金沢市のし

いのき迎賓館で開かれ、教育関係者が将来の教育のあり方について理解を深めた。

北陸三県のほか、東京や京都などから大学の教職員ら約六十人が参加。三県の代表者がそれぞれ、国の支援を受けて地域住民や他大学の学生たちが交流を深める戦略GPの成果と課題を発表した。

金沢大の古畑徹教授が、県内二十の高等教育機関が連携した活動を説明。「社会人の受講生が増えたり、コンピュータ機器などの共有を図ることができた」と評価した。

参加者からは「事業の具体的な事例が知り

たかった」などと感想が漏れた。各県の代表者らによるパネルディスカッションも開かれた。

フォーラムは、本年度で終了となる戦略GPを今後どのような形で

たちで継続するかを検討するため、大学コンソーシアム石川が主催した。（中村文人）

◆大学連携へフォーラム

大学コンソーシアム石川などの北陸三県合同フォーラムは18日、金沢市のしいのき迎賓館で開かれ、大学間の連携を進めるために取り組んだプログラムが紹介された。

2008年度に文部科学省の戦略的大学連携支援事業（戦略GP）に採択されたプログラムで、各県の代表校がそれぞれ3年間の成果を報告。石川県は金大の古畑徹教授が「大学コンソーシアム石川を中心とした共通の教養教育機関とICT教育支援体制の構築」と題したプログラムを説明した。基調講演やパネル討論会も行われた。